



4 いのちを守り育む県づくり

【健康寿命】 健康寿命は本一を維持!! 全国1位!! 女性 84.32年 男性 79.80年 <small>※令和元年度調査結果</small>	【再生可能エネルギー自給率】 再生可能エネルギー自給率 100%達成をめざし自給率向上! 8.0% 2015年度 → 12.9% 2020年度
---	---

復旧・復興と災害を踏まえた取組の推進

※詳細は1～4ページを参照

◆台風第19号災害からの復旧・復興、その教訓を生かした災害に強い県土づくりを推進

安心・安全な暮らしの確保

◆園児や高齢ドライバーの交通安全対策などにより、県民の安心・安全な暮らしを確保

園児の交通安全対策 7億7448万9千円※令和元年度2月補正(国補正対応分)を含む(1億9610万円) ⇒建設部5、警察本部1
 令和元年5月の滋賀県大津市における園児の交通事故を踏まえ、信号機の改良や歩道の整備等の安全対策を実施

高齢ドライバーの運転事故防止 2367万1千円(1482万円) ⇒県民文化部9、警察本部1
 ドライブレコーダーの活用による交通安全教育を充実するとともに、運転能力の衰えへの「気づき」を促す講習会の開催を支援するなど、高齢ドライバーの運転事故防止対策を強化

脱炭素社会の構築

※詳細は5～6ページを参照

◆「気候非常事態宣言」を踏まえ、省エネ化や再生可能エネルギーの利用などを推進

自然環境の保全と利用

◆生物多様性の保全の取組を強化するとともに、自然公園の利用を促進

(新)希少野生動植物の保護対策強化 ～ライチョウ保護スクラムプロジェクトの推進～ 313万1千円 ⇒環境部6
 クラウドファンディング型ふるさと信州寄付金を活用し、第1弾としてライチョウの保護を担う人材の育成と目撃情報収集アプリの開発を実施し、保護対策を強化

自然公園の利用促進 1億5620万1千円(1152万9千円) ⇒環境部7・8・9・10

- (新)・国定公園に指定予定の中央アルプスにおいて、避難小屋や登山道などの施設整備を行う市町村を支援
- (新)・自然災害により損傷した登山道について、市町村等による早期復旧を支援(全国初)
- (新)・御岳県立公園の利用者や登山者への情報提供及び学習の拠点となる「御嶽山ビジターセンター」の整備に着手
- ・エコツーリズムの推進拠点として「霧ヶ峰自然保護センター」の改修に着手

持続可能な地域医療提供体制の構築

◆地域医療構想の推進や医療機関の連携による医師確保対策により、持続可能な地域医療提供体制を構築

地域医療構想の推進 2638万8千円(1億7058万7千円) ⇒健康福祉部5

- (新) ・地域医療構想の推進に向け、地域医療構想アドバイザーを活用し、医療圏ごとの課題解決を支援
- (新) ・信州大学と連携し、県と大学が保有するデータを活用して現状を分析し、医療機関の役割に応じた医師派遣を検討
 - ・病院の再編・統合やダウンサイジングに伴う施設の整備や解体への支援制度を拡充し、鹿教湯病院と三才山病院の再編などを推進
- (新) ・地域の実情に応じた医療提供体制の確保に向け、部局横断的な調整を行う「地域医療担当部長」を配置

医師の確保・定着の推進 5億5732万円(5億4791万4千円) ⇒健康福祉部2

- ・医師不足の中小規模病院等に医師を派遣する拠点病院を県内全ての医療圏で指定(11病院→13病院)
- ・医学生への新規修学資金貸与の拡充(17人→25人)など地域医療を支える医師の確保・養成・定着を推進

心と身体の子健康づくり

◆健康づくり県民運動「信州ACEプロジェクト」や子どもの自殺をゼロにするための対策を推進

信州ACE(エース)プロジェクトの推進 3060万5千円(3132万6千円) ⇒健康福祉部1

市町村や協会けんぽ等の保険者、経済団体等との協働により、フレイル予防などの健康づくりの取組を推進するとともに、地域の健康課題に関する分析データを提供することで、効果的な保健指導など市町村の取組を支援

子どもの自殺対策 2億9599万3千円(2億7024万7千円) ⇒健康福祉部14、教育委員会10・11・12

子どもが悩みを抱え込まないためのワークショップ形式の講習の拡充やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる支援体制の強化、日本財団と連携した「子どもの生きていく力サポートプロジェクト」により、児童生徒が抱える不安や悩みを早期に相談・発見できる体制を構築